

授業科目	老年看護実習 1	3 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	鳥谷めぐみ、木島輝美、他		
概要	介護保険の通所サービス等を利用する高齢者とのコミュニケーション、活動の参加観察を通して、老年期にある人の心身の特徴を理解し、高齢者の価値・信念を尊重した態度を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個々の高齢者の機能に適したコミュニケーション方法を工夫し実践できる。</li> <li>2. 加齢による身体的・心理的・社会的変化を説明できる。</li> <li>3. 高齢者の健康レベルやライフサイクルの視点から健康上の課題を説明できる。</li> <li>4. 高齢者の価値・信念を尊重した援助の重要性を説明できる。</li> <li>5. 看護学生として責任ある行動をとり、主体的に学習に取り組むことができる。</li> </ol>		
評価	実習目標の達成度(目標 1~5 について各 20%)をルーブリック評価表を用いて評価する。評価対象は、実習状況、実習態度、カンファレンス参加状況、記録およびレポートの記載内容である。ルーブリック評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	老年看護方法の単位を修得していることが、本実習の先行要件となる。 原則として、遅刻、欠席、早退を認めない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前連絡する。 実習要項は別途、配付する。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3~6 名のグループを編成し、デイケア(通所リハビリテーション)またはデイサービス(通所介護)において 1 週間実習する。</li> <li>2. 受持ち利用者を決めずに、施設プログラムに沿って積極的に利用者とかかわる。</li> <li>3. 臨地実習での体験内容と学びは、毎日、所定の用紙に記録する。</li> <li>4. 実習最終日は、学内においてまとめのカンファレンス、報告会を実施する。</li> <li>5. 実習終了後に実習記録および課題レポートを提出する。</li> </ol>
実習期間	9月中旬の1週間
実習場所	札幌市内のデイケア、デイサービス等の介護保険通所サービス施設
実習時間	原則、9時~17時とする。ただし、実習施設により変更する場合がある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設のプログラムに参加しながら高齢者と積極的にコミュニケーションをとる。</li> <li>2. 高齢者の価値・信念を理解するために、利用者のライフストーリー・インタビューを行い、考察する。</li> <li>3. 高齢者の健康上の課題を理解するために、施設における専門職の活動を参加観察する。</li> <li>4. 高齢者の生活背景を理解するために、施設職員とともに送迎サービスに同行する。</li> <li>5. 施設カンファレンスを適宜行い、学びを深め共有する。</li> <li>6. 実習での体験内容は所定の用紙に記録し、実習目標に沿って考察する。</li> <li>7. 実習最終日に学内カンファレンスを行い、学びを共有するために意見交換をする。</li> <li>8. 実習目標 1~4 に対する学びを考察しレポートにまとめる。</li> </ol>